
山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより 第102号 (通巻第169号)

2011年10月31日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp
URL: http://www.cer.yamanashi.ac.jp/

■ 後期教育ボランティアガイダンスの報告

10月12日(水)に、本学N-11・12教室において、学生を対象にした後期教育ボランティアガイダンスが、教育ボランティア学生運営委員会によって開催されました。

当日は加藤教育ボランティア委員長の活動の意義等を含めた挨拶、学生運営委員長の話、嶋田ボランティア委員の概要説明に続き、15カ所の受け入れ先から丁寧な説明がありました。学生は、受入先を3か所ごとにグループ化した6つのブースの中から興味のある受入先を選び、説明を聞きました。

学生の皆さんはそれぞれの説明に熱心に聞き入っており、終了後も受入先に個人的に質問に行く姿が見られるなど、この活動に対する、学生の関心の高さを実感することができました。

今後も、教育ボランティア活動が、学生運営委員会を中心に、学生自身の手によって一層発展していくことを期待します。

なお、ガイダンスに参加した受入先は次のとおりです。

- ・山梨県教育委員会社会教育課 ・甲府市教育委員会 ・甲斐市教育委員会
- ・笛吹市教育委員会 ・韮崎市立穂坂小学校 ・甲斐市立敷島小学校
- ・南アルプス市立若草小学校 ・南アルプス市立豊小学校 ・昭和町立押原小学校
- ・昭和町立押原中学校 ・中央市立田富小学校 ・中央市立豊富小学校
- ・山梨英和中学校 ・児童養護施設明生学園 ・本学図書館附属子ども図書室



■ 「問題を抱える子ども等の自立支援事業 第2回 運営協議会」の報告

山梨県教育委員会が文部科学省の委託のもと推進中の事業「問題を抱える子ども等の自立支援事業」の「第2回運営協議会」が9月29日(木)、山梨県総合教育センター内会議室において開催され

ました。山梨県にある3つの適応指導教室，山梨県公立小中学校長会，児童相談所，甲府市・笛吹市・富士吉田市の教育委員会等，計26名の関係者が集まり，23年度事業の中間報告と討議が行われました。附属教育実践総合センターからは谷口明子教授が出席し，委員長として協議の司会と全体のまとめを行いました。

■ 高知大学教育学部附属教育実践総合センター訪問の報告

本学教育ボランティア活動，特に学生運営委員会の取組の充実を図るため，10月21日（金）に，高知大学教育学部附属教育実践総合センターを，本学教育人間科学部附属教育実践総合センターの嶋田一彦教授と早川健准教授が訪問しました。

今回の訪問では，附属教育実践総合センター長の小島郷子教授，岡谷英明准教授，島田希講師に，高知大学における学生ボランティアのお話を伺いました。

高知大学においては，平成17年に教育学部の学生たち43名によって「高知子ども守り隊～守るんじゃー～」が発足しました。背景には平成15年から17年にかけて全国で起きた子ども殺害事件があり，子どもたちの命を事件・事故から守りたいとの思いから学生組織が立ち上がりました。その後，大学公認の「学生による自立的学内外活動サポート組織」の支援を受けて活動が始まり，現在に至っています。大学周辺の小学校児童を対象に，犯罪や事故が発生しやすい場所に隊員を配置し，下校時の通学路の巡回パトロールを行っています。大学や高知県公安委員会，警察署などから優良団体として表彰されたり，今年度はボランティア奨励賞（文部科大臣賞）を受賞したりするなど大学内外から高い評価を受けています。

「守るんじゃー」とともに大学の公認を受けている学生ボランティアとして「学援隊」があります。平成15年まで行われた放課後学習チューター事業を継続させ，教育学部の有志によって組織された子ども学習支援ボランティアです。高知市の小中学校での放課後指導・学習支援が主な活動です。高知市教育委員会と協力し，指導主事や現場の先生方から実践的なアドバイスを受けるカンファレンスも実施しています。

「守るんじゃー」と「学援隊」は，どちらも学生の自発的な活動から発足したボランティア団体であることが特徴です。学生の強い思いが後輩たちに受け継がれ，高知の子どもたちの安心・安全，学習支援に貢献しています。

訪問を通して伺った内容は，本学の教育ボランティア学生運営委員会の活動に大いに参考になるものでした。本学の学生運営委員会の活動に活かし，学生の学びを一層深めていきたいと考えています。

■ 北海道教育大学視察報告 ～教職大学院 学校・地域教育研究支援センター

教職大学院客員教授で教育実践総合センター兼任教授の雨宮，瀧田と，客員准教授の仙洞田が，9月16日（金），北海道教育大学札幌キャンパスを訪問しました。午前中は教職大学院の教育課程等について，午後は学校・地域教育研究支援センターの事業や運営状況等についてお話を伺いました。

移動に3・4県分の距離を要する広大な北海道の教育は，（1）その7割が北海道教育大学の5つのキャンパスの卒業生によって担われていること，（2）大学院での講義は，「双方向遠隔授業システム」によって札幌・旭川・釧路の各キャンパス間で同時に進められていること，（3）教職大学院及び学部とも教員採用試験において好成績をあげていることなど，丁寧な説明をいただきました。また（4）全学の学生を支援するため，札幌駅南口に北教大の学術・文化創造拠点として，「hue Pocket」と名付けられる施設を設置し，この4月よりキャリア支援を始めたことなど，興味深い話も伺うことができました。

センターでは，はじめに学生ボランティアについてお話を聞きました。事務的な作業の多くは，昨年訪問した岡山大学と同様に，道教育委員会と札幌市教育委員会が担っているようです。防災教育についても伺いました。地図を見ると，札幌キャンパスは，JR札幌駅から北に25分くらいのと

ころに位置し、その北側には、石狩川が流れていることに気がつきます。ここで作成した防災教育DVDは、2008年の制作ですので、津波を想定したものではありませんが、地震に対する心構えが、「自助・共助・公助」というコンセプトからまとめられており、記憶によく残る、分かり易い構成になっています。「DVD制作」という視点で、院生や学生に役立ててもらえるのではないかと考えています。

今回の訪問でお世話になりました北海道教育大学の福井先生、前田先生、藤森先生、総務課の小林さんには心からお礼を申し上げ、視察報告とさせていただきます。

■ 日本教育大学協会 全国教育実習研究部門 総会・研究協議会及び研究集会報告

過日、香川県高松市内において開催された標記研究会に、本学部教育実習委員長の宮崎淳一教授と附属教育実践研究指導センターの成田雅博准教授が出席しました。

香川大学教育学部研究交流棟において、2011年10月14日(金)に開かれた平成23年度 日本教育大学協会 全国教育実習研究部門 第25回総会・研究協議会には、36大学・65名の教職員が参加し、教育実習自己評価シートの開発、教職大学院における教育実習のあり方、授業実践に関する省察(リフレクション)を深めるための「まなびフォーリオ」(ポートフォーリオ)の活用等、9件の発表がありました。

全日空ホテルクレメント高松及びサンポートホール高松において、2011年10月15日(土)に開かれた日本教育大学協会研究集会には、約200名の教職員が参加しました。午前中の文部科学省高等教育局長の磯田文雄氏による「国立大学における教員養成に求められるもの」と題する講演と「新たな教員養成の在り方を探る」をテーマとするシンポジウムに引き続き、午後は、「教員養成カリキュラムの改革とその具体的取り組み」「修士段階での教員養成の在り方」「今、附属学校が果たすべき役割と新たな展開」「教師になるために」ー学生及び新人教員からのメッセージー」「自由課題」の分科会ごとに、「教職実践演習」を含む教育実習カリキュラムや教職大学院における教育専門職養成の動向に関する研究協議を行いました。

上記の研究集会の予稿集、発表資料等は、教職大学院での回覧後、教育実践総合センター事務室(J424)で閲覧できるようになります。関心をもたれた方はお問い合わせください。

なお、平成24年度の本部門総会・研究協議会及び研究集会は鹿児島市内で開催される予定です。

■ 「教育相談室」及び相談室の備品をどうぞご利用ください

教育相談室(Y-304)をどうぞご利用ください。ご利用に際しましては、事前に教育実践総合センター事務室(J号館4F)にて空き状況を確認の上、ご予約ください。鍵はセンター事務室にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。

教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出ししております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

これまでのセンターだよりの一部は、 <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。